

<p>新規就農者の素顔</p>  <p>氏名：土屋 淳 住所：洲本市鮎原 年齢：39歳</p>	<p>農業経営の状況（現在）</p> <p>経営内容： ブロッコリー 100a、玉葱100a、 水稲60a、ピーマン3a、 サニーレタス30a</p> <p>労働力：本人、妻</p>  <p>玉葱のマルチ張り風景</p>
<p>就農から現在まで</p> <p>平成 20 年 1 月 ひょうご就農支援センターに相談に訪れ、紹介された農家で研修を行うため、北海道から洲本市へ移住する。</p> <p>平成 21 年 9 月 研修先から農機を借りながら、借農地で営農を開始。</p> <p>平成 26 年 人・農地プランで担い手として位置づけられ、青年就農給付金を受給。 現在に至る。</p>	<p>就農で良かった点、苦労した点</p> <p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自営業なので経営方針を自分で自由に決められる点。 • 自分が作った作物を喜んでもらえる反応を直接感じられる点。 • 農業青年クラブで会長を務め、県域の活動を通して様々な業種の人と出会えたこと。 <p>○苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 ターン就農したため、人脈や周囲の農家からの信用がなく、なかなか農地を貸してもらえなかった点。
<p>農業をめざした動機</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自営業で、自分の時間を自由に使える農業という仕事に魅力を感じたため。 • 瀬戸内の穏やかな風景に憧れ、淡路島に移住し、農業に従事することを決意する。 	<p>後輩へ贈る言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> • こだわりの農産物を求める消費者は多く、農業は自分の工夫次第で、大きなビジネスチャンスが期待できる仕事です。 • 栽培しやすい農地を確保できるよう人脈作りは第一に考えましょう。